

総合交通計画の目標の 追加について

1.計画の目標の追加

(1) 現時点での目標案

① 公共交通利用者数

●現況値(2020年度) 8,410万人/年

公共交通利用者数をコロナ禍前の1億人/年まで増加

② 公共交通利用圏

●現況値(2022年度) 91.8%

市街化区域内の公共交通利用圏(鉄道駅勢圏及びバス停勢圏の区域)を、90%以上に維持

③ コミュニティバスの収支率

●現況値(2021年度) 36.4%

コミュニティバス全ルート平均収支率を50%に増加

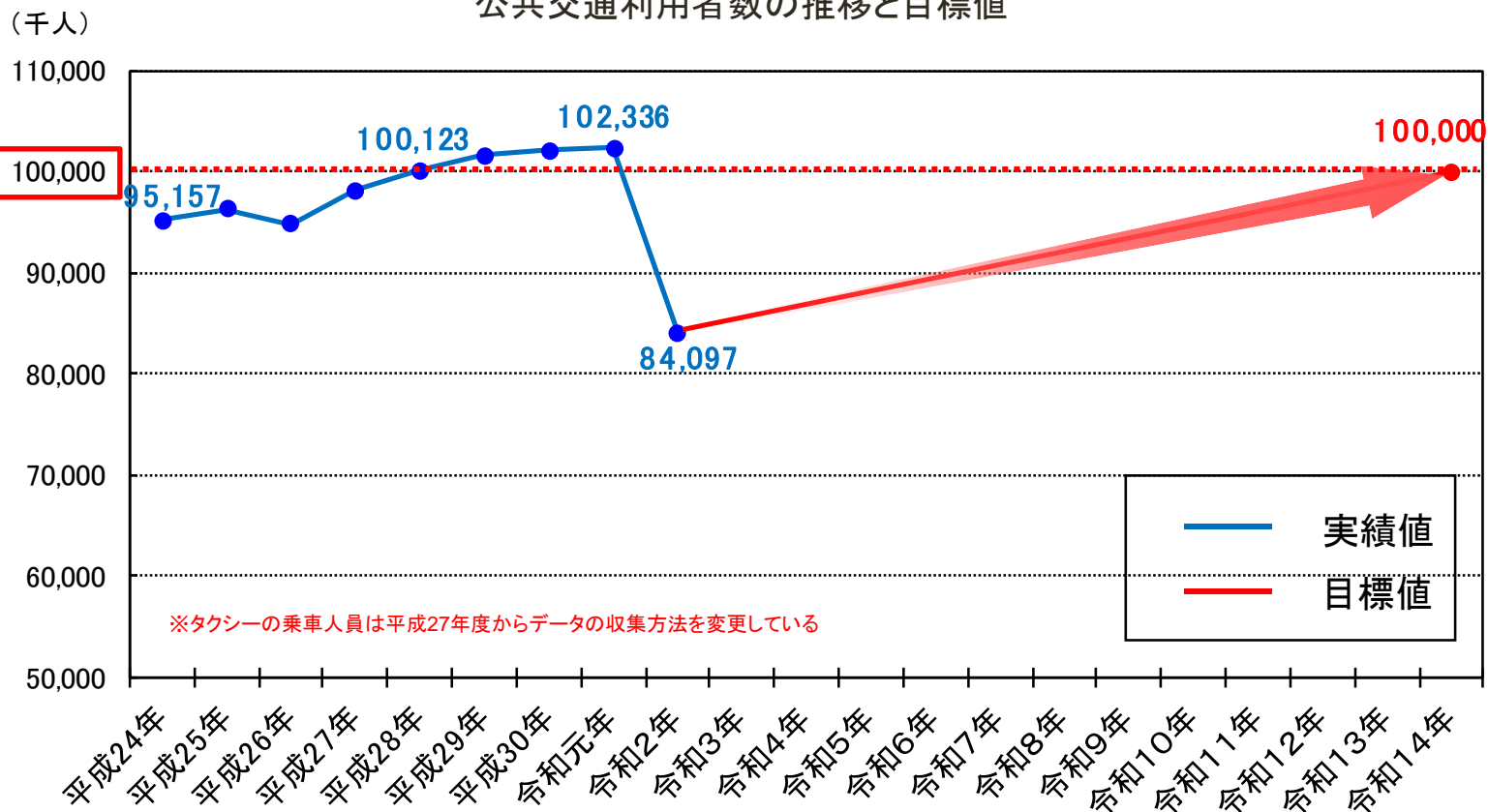
1.計画の目標の追加

(1) 現時点での目標案

①公共交通利用者数

電車やバスなどの公共交通の活性化や維持を図るため、公共交通利用者数を10年後の令和14年（2032年）においてコロナ禍前の1億人/年まで増加させることを目標とします。

公共交通利用者数の推移と目標値



1.計画の目標の追加

(1) 現時点での目標案

②公共交通利用圏

市内の交通ネットワークを面的にカバーし、誰もが公共交通機関にアクセスしやすい環境を確保するため、市街化区域内の公共交通利用圏（鉄道駅勢圏及びバス停勢圏の区域）を、10年後の令和14年（2032年）においても90%以上に維持することを目標にします。

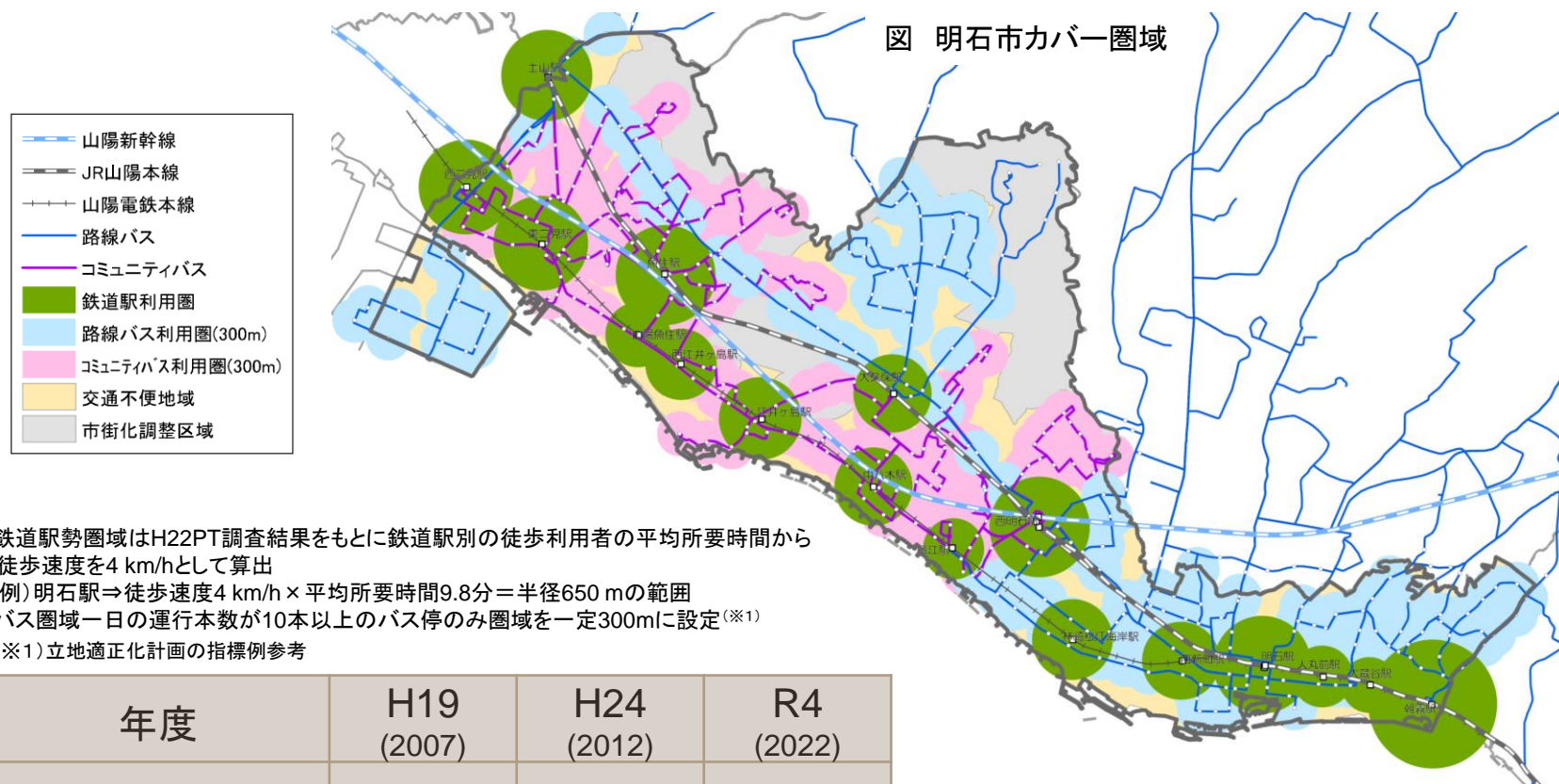


図 明石市カバー圏域

- ▶鉄道駅勢圏域はH22PT調査結果をもとに鉄道駅別の徒歩利用者の平均所要時間から、徒歩速度を4 km/hとして算出
(例) 明石駅⇒徒歩速度4 km/h×平均所要時間9.8分＝半径650 mの範囲
- ▶バス圏域一日の運行本数が10本以上のバス停のみ圏域を一定300mに設定(※1)
(※1) 立地適正化計画の指標例参考

年度	H19 (2007)	H24 (2012)	R4 (2022)
公共交通利用圏	75%	91.4%	91.8%

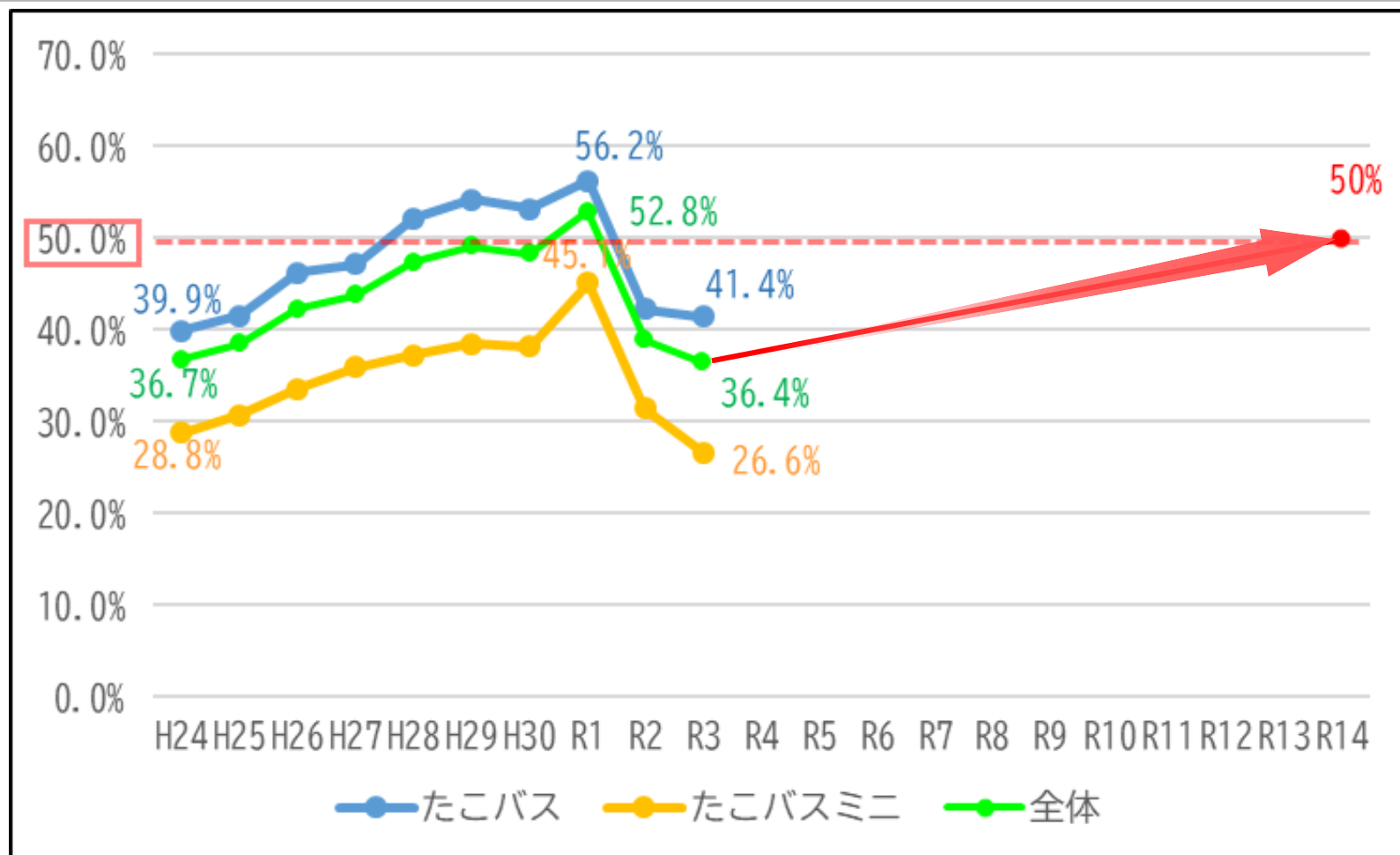
図 明石市公共交通利用圏推移

1.計画の目標の追加

(1) 現時点での目標案

③コミュニティバスの収支率

現在の交通ネットワークの一部を担っているコミュニティバスを効率的で持続可能な運営を行っていくため、10年後の令和14年（2032年）においてコミュニティバス全ルート平均の収支率を50%を目標とします。



1.計画の目標の追加

(2) 目標案の追加

④利用者1人あたりの公的資金投入額

路線バス、コミュニティバスの運行に係る補助金（公的資金）の定量的な指標として、利用者1人あたりの公的資金投入額を10年後の令和14年（2032年）において増加させず維持することを目標とします。

	R3（現況値）	R14（目標値）
利用者1人あたりの公的資金投入額※1	138円/人	維持

※1 利用者1人あたりの公的資金投入額＝公的資金投入額※2÷利用者数※3

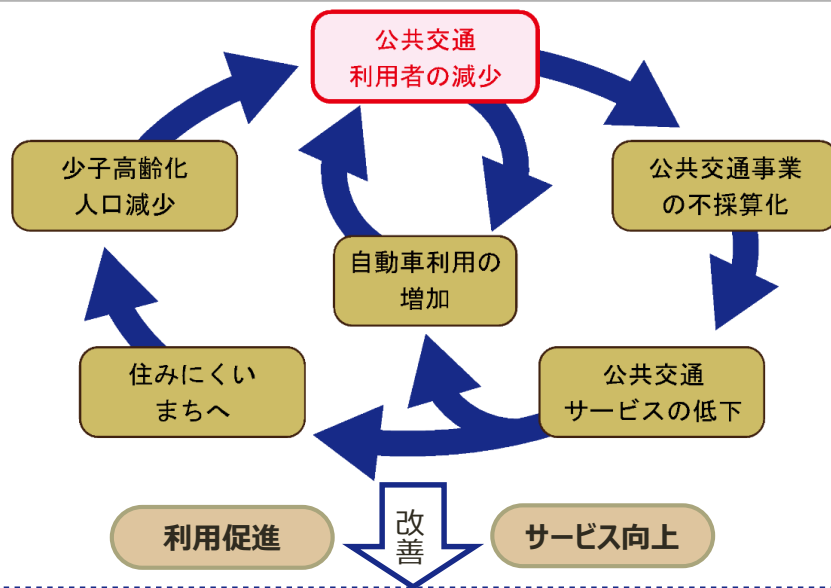
※2 公的資金投入額＝路線バス(幹線系統・準幹線系統)運行補助金(沿線市町含む)+コミュニティバス運行補助金

※3 利用者数＝路線バス運行補助系統の利用者数(沿線市町含む)+コミュニティバス利用者数

1.計画の目標の追加

(3) 負のスパイラルからの脱却

○ 公共交通を取り巻く負のスパイラルから脱却するため、本計画に定める交通施策を実施し、サービス向上を図るとともに、より公共交通利用を促進して既存の交通ネットワークを維持していくことが必要です。



計画の目標

公共交通利用者数を1億人に増大

公共交通利用圏の維持

コミュニティバスの全体収支率を50%に増加

利用者1人あたりの公的資金投入額の維持

※ 交通手段分担率、外出割合については、目標設定はしませんがパーソントリップ調査実施時には引き続き経過観察していくこととします。